

教育相談だより（2月）

2月 カウンセリング予定

鳥栖市立鳥栖中学校

令和7年2月3日

スクールカウンセラー
高先生より

4日(火) 14日(金) 25日(火)

こんにちは、スクールカウンセラーの高です。いつもは休みの日に慌てておたよりを書くのですが、今回は麓小の相談室からお届けします(ラジオ風です)。今日は『うちの子が学校に行かなくなって考えたこと』を書いてみようと思います(娘にはこの文章を公開する許可を取りました)。

時は2024年11月、小6の娘が「もう学校には行かない(行けない)」と言いました。ここでは詳細を省くとして、娘がこの言葉を言うまで、何か月も辛い気持ちでいたことを見ていたので、私も夫も「なるほど、そうしよう」ということで、学校に行かない日々が始まりました。始まったはいいものの家族が非常にギクシャクします。今までは朝の7時20分に娘を学校に送り出してしまえば16時過ぎに娘が帰宅するまで、私は正直娘のことを忘れてしまうといえますか、私が娘について何か考えたり、何かをしたりする必要がありませんでした。学校で、勉強や運動、音楽や友だちとの交流、掃除、お昼ご飯まで済ませてきてくれます。私はそのことに慣れてしまっていました。それに「学校に行かないことで大切な経験の機会を失ってしまうのではないか」という考えも私をイライラ急き立てます。そうしてても人間とは不思議なもので、1週間もすると、段々とギクシャクがこなれてきて、学校に行かないという状況に慣れていきます。娘と過ごすために、仕事の調整をしたり、夫や実母にも色々頼んだりしながら、ぎこちないものの「私たちはこの時間をどう暮らそうか」という視点を持つようになって、それについて親子で話すようになりました。私たち家族のモットーは、簡単にまとめると『よく学び、よく楽しみ、よく休む』で、これを念頭に置いて暮らしてきたと思います。よく学ぶためには何をしたらいいのか、よく楽しむために、よく休むためにどんなことができるのか。学校に行っていたときには、学校のリズムに乗ってれば過ぎていた時間が自分たちで作り上げる必要のある時間になりました。それは確信もないし、分かりやすい道しるべもない時間で、私を時折不安にさせます。でも、頭は不安な感じがしても、肌感覚としては落ち着いていました。娘と勉強をしたり、漫画を読んだり、家事をしました。ぐっすり寝て、散歩もして色々話しました。確かにこの期間、娘は学校で経験したであろうことは経験していません。それは「失った」と表現されるかもしれませんが、反対に学校に行かないことで経験できたことを「得た」ともいえると思いました。登校に関して、色んな考えがありますが、私がこの時間を通して考えたことは「学校に行く、行かないは究極的にはこどもの本質に関係がない」ということと「学校に行っているときは意識しにくいけれど、本来は日々の時間をどう暮らすかを自分で決めていく」ということでした。学童期は「学校」との付き合い方をどうするのかということが大きなテーマかもしれませんが、子どもの人生はその後も続きます。映画のタイトルではないですが『君たちはどう生きるのか』ということのをこれからも考えて、そのときそのときの決断をしていこうと思います。長くなりました。読んでいただきありがとうございます。

《予約の仕方》

生徒の皆さんは、学校で申し込むことができます。保護者の方は電話で予約をお願いします。予約は、担任や学年の先生、又は保健室の先生などを通してお願いします。教育相談担当で時間の調整を行います。場所は、管理棟3階の相談室です。時間は、校時表にそって行います。鳥栖中学校 TEL 83-2537